

発 言 通 告 書 要 旨 (1枚目/全2枚)

氏 名 植木 陽祐

発言番号		発言事項及び発言要旨	備 考
1	(1)	<p>新「加賀市ビジョン」策定事業について 第2次加賀市総合計画の振り返りに係る体制とスケジュールについて</p> <p>新「加賀市ビジョン」を策定する上で、これまでの総合計画・実施計画の振り返りをどのような体制とスケジュールで実施する予定であるのか。 また、外部有識者や市民参画の予定があれば示せ。</p>	
	(2)	<p>評価観点の明確化について</p> <p>振り返りにあたって各事業の「できた/できなかった」だけでなく、「人口減少対策として効果があったか」など、どういった観点で評価するのかを定めてから、各事業を振り返る必要があると考える。 そうした施策の効果を評価する観点を導入する考えはあるのか。ある場合は具体的な評価方法を示せ。</p>	
	(3)	<p>目標の数値化について</p> <p>各事業が滞りなく遂行できたかについては、目標に照らすことで達成度を測ることができるが、効果があったかどうかについては、評価する別の観点が必要になると考える。 評価の観点が「もっと住民が幸せな加賀市」であると思うが、住民が幸せなまちかどうか、何ををもって評価するのか、明確な指標を定める考えはあるのか。 例えば、住民が幸せであるから人口増加率が高いなどは、幸せな状態を測るための一つの指標になると考える。 こういった指標を定めることで、市民にとって分かりやすい説明を行うことができると考えるが、このようなものを検討する考えはあるのか。</p>	
2	(1)	<p>加賀市農林水産業振興行動計画策定事業について 現状把握の指標について</p> <p>離農者数(農家減少数)・新規就農者数の推移について示せ。 また、耕作放棄地面積の推移については、どのように評価しているのか。</p>	

発 言 通 告 書 要 旨 (2枚目/全2枚)

氏 名 植木 陽祐

発言番号	(2)	発言事項及び発言要旨	備 考
	(2)	<p>農業環境に関する展望について</p> <p>全国的に農家数が減少していく中、本市として目指すべき農業の姿を示す必要があると考えるが、所見を問う。</p> <p>例えば、大規模化を進めていく、新規就農者を増やしていく、農地を宅地に転用して販売拠点や加工拠点などを整備し、有効活用していくことなどが考えられるが、具体的な姿を示せ。</p>	
	(3)	<p>6次産業化等の新たな具体的施策について</p> <p>他自治体ではなく、「加賀市において農林水産業に従事したい」と求められるためには、加賀市版「稼げる農業」を推進すること、特に農産物の6次産業化が重要なポイントとなると考える。</p> <p>総務経済委員会で視察した福島県郡山市で紹介された6次産業化の先進事例（生産者を紹介するウェブコンテンツ、地元飲食店と生産者がその日限りでコラボして出店するフードフェスなど）や、その他、各自治体の取組なども参考に、今後検討を始めていく上で、加賀市で導入できる可能性がある新たな施策について示せ。</p>	
	(4)	<p>横断的な策定体制づくりについて</p> <p>稼げる産業へと推進するためには、農林水産分野だけでなく、多岐にわたる分野と連携していく必要があると考える。</p> <p>前期の行動計画では、委員名簿を見ても多くの団体から協力を得ていることが分かる。</p> <p>農業を守り立てるために、本市独自の取組が不可欠であり、例えば、オーガニック給食を推進するのであれば教育委員会と、他市からの新規就農と他業種とを組み合わせた「半農半X」での移住促進を図るのであれば総務部など、引き続き、多くの団体に協力を仰ぐことが必要ではないかと考える。</p> <p>多くの分野からのアイデアを集積させ、計画策定を進めるべきであると考えているが、策定に向けた横断的な体制づくりについての所見を問う。</p>	
3		<p>主要・重点事業の事前評価の実施について</p> <p>主要事業や重点事業については、計画時に有識者を交えて、「どう進めるとより効果的か」、「より進めやすい計画となっているか」などを議論する仕組みを導入することで、各事業で最大の効果が得られると考えられる。</p> <p>特に、次年度の予算編成を行う中で実施することが適切であると考えているが、こうした仕組みを導入する考えはあるか。導入する場合は、実施方法（参画者構成、頻度など）の想定を示せ。</p>	